

特定非営利活動法人日本小児循環器学会 理事会

2025 年度第 1 回理事会 議事録

1. 日時:2025 年 9 月 11 日(木)19:00~21:19

2. 場所:国際文献社会議室および web 会議(Zoom 使用)

3. 参加者

理事総数:21 名、出席理事:17 名、欠席理事:4 名

理事長:小野博

副理事長:笠原真悟(欠席)

出席理事:石戸美妃子、犬塚亮、落合由恵、金成海、櫻井一、須田憲治、瀧間淨宏、武田充人、豊野学朋、

中野俊秀、仁尾かおり、藤本一途、帆足孝也、増谷聰、松井彦郎、横山詩子

欠席理事:塩野淳子、檜垣高史、三谷義英

出席監事:岩本眞理、坂本喜三郎、山岸敬幸

出席幹事:青木雅子、倉岡彩子、津村早苗、吉田葉子

4. 議長:理事長 小野博

5. 議事の経過の要領及びその結果

定款第 26 条 3 項により小野博理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として、犬塚亮理事、石戸美妃子理事が選出された。

6. 前回議事録の確認 ..... 資料 1p.1

前回議事録への異議はなく承認された。

7. 審議事項

第 1 号議案:研究の種プロジェクトについて(学術・犬塚理事) ..... 資料 2p.9

研究の芽プロジェクトと並行し、学会員から発案される研究アイデアである「種」を募集し、アイデアの具現化をサポートするプロジェクトである。学会のクエスチョンシステムを用いたアンケート調査をサポートするが、今回、その申請用紙や設置規則の内容について承認いただきたい。

- ・研究の種が承認されたら、クエスタントは誰が作成するのか?
  - 申請者がクエスタントで調査したい項目を設定し、クエスタント作成自体は事務局が行う形になる。
- ・クエスタントの結果は事務局から生データで申請者に送られるのか?
  - 基本的にはそうしているが、過去には事務局が集計してから送ったこともある。
- ・アンケート締め切り後、いつまでに結果が申請者に送られるかなど、タイムラインは決めておいた方がよいのではないか。
  - 事務局の仕事が少し増える形となるため、詳細は学術委員会でも検討することとする。

#### 議決結果

全会一致で承認された。

#### 第2号議案:評議員会のハイブリッド開催について(働き方改革委員会前委員長・武田理事)資料 2p.16

2023年度第3回理事会で、働き方改革委員会および多領域専門職委員会から、評議員会のWEB開催もしくはハイブリッド開催について提案がなされ、全員一致で承認されたが、具体的な開始時期が決定されていないため、再度検討いただきたい。

- ・ハイブリッドかWEBのみか?
  - 前回、ハイブリッドとするかWEBのみとするかまでは議論していない。
- ・他の学会はどのようにしているか?
  - WEBで行っている学会が多い。胸部外科学会は別日に完全WEB開催。生理学会は、学術集会前日にハイブリッドで開催されるが、費用は学会が負担している。
- 議決権のある評議員会は別日にWEB開催で成立するが、当学会の評議員会は理事会での議決結果の報告が主となるため、理事会のあとに開催しなければならない。(当初「評議員会には議決権はない」との説明があったが、その後、事務局より「学術集会会長および監事については評議員会で推薦・承認を行っている」との修正があった)
- ・議決権がないのであれば、オンデマンド配信にしてはどうか?
  - 学術集会会長と監事については、評議員会で推薦、承認しているため、リアルタイムでの参加が必要。

基本的にはハイブリッドもしくはWEB開催がよいと考えられるが、会場の確保なども検討しなければならないため、学術集会会長と協議する必要がある。2026年以降、何らかの形でWEB開催を交えられるよう学術集会会長と未来予想図委員会で協議し、なるべく早く理事会で諮ることとする。

#### 議決結果

全会一致で承認された。

### 第3号議案:学校心臓検診委員会のHP利用について(社会制度・檜垣理事 代理:岩本監事)資料 2p.17

学校心臓検診に関して、医師には学会ガイドラインなど一定の情報が整理されているが、一般の保護者や学校関係者向けの情報は限られている。そのため、学校心臓検診について学会 HP の一般向けページから発したい。

#### 議決結果

全会一致で承認された。

### 第4号議案:新委員会構成員の変更について(未来予想図・小野理事長)…………… 資料 2p.18

学術エリア内科系教育委員会委員に上野健太郎先生、専門医エリアカリキュラム委員会委員長に平田陽一郎先生、委員に麻生健太郎先生、社会制度エリア移植委員会協力員に加藤秀之先生、外科系教育委員会オブザーバーに平野暁教先生がなることを承認いただきたい。まだ内諾を得ていない委員については、内諾後、持ち回り理事会で承認する。

・平野暁教先生が「オブザーバー」という形なのはなぜか

→前期委員を務め、今期は他の委員会との兼任が多いため委員から外れることとなったが、引き継ぎが終わるまでは補助として委員会に携わっていただきたいため、オブザーバーという形をとった。

・オブザーバーとしての仕事とは異なるため、やはり正式に委員とすべきではないか。

→委員として依頼する。

#### 議決結果

全会一致で承認された。

### 第5号議案:健やか親子支援協会からの依頼について(未来予想図・小野理事長)……… 資料 2p.20

一般財団法人健やか親子支援協会から、小児希少難病の精査診療機関検索サイト事業へ希少難病診療機関の紹介を掲載するサイトへの掲載機関の紹介を依頼されている。専門医修練施設と連絡先一覧(学会ホームページに公開されているものと同じ)を提供することと、学会ホームページのリンクを掲載することを承認いただきたい。専門医修練施設には協会から責任者に連絡が行き、掲載の可否を尋ねることとなるため、掲載するかどうかは各施設の判断に任せる形となる。

・リストを渡すことと、ホームページに掲載されているものを見てもらうのとでは何が違うのか？

→正式に文書で依頼が来ているため、リストを渡して正式に回答する予定である。

#### 議決結果

全会一致で承認された。

### 第6号議案:厚労科研難病班の難病ホームページの病気の解説・概要診断基準・臨床調査個人表(個票)

の改訂(未来予想図・小野理事長)……………資料 2p.27

厚労科研難病班の難病ホームページの病気の解説・概要診断基準・臨床調査個人表(個票)について、現行の一覧で提出したい。内容は承認後でも変更可能であり、変更については、小児慢性・難病対策委員会で議論予定である。

#### 議決結果

全会一致で承認された。

第 7 号議案:新学会 HP 改訂に関する検討について(未来予想図・松井理事) ……資料 2p.29

現在の学会ホームページには、学会員中心のホームページと一般ページがあるが、学会員中心のホームページは作成から10年以上が経過し、デザイン・掲載内容も古くなっている。学会員への情報を拡充させるべく、ホームページの全面改訂を具体的に検討したい。

- ・広報委員会と未来予想図委員会でデザインや具体的な内容を考えることになるのか？  
→現在の広報委員だけでは若手が少なくパワー不足と考えている。原案を考えるチームとそれを具体化するチームを作る予定である。
- ・英語のページも情報が古く、もっと拡充すべきだろう。
- ・若手の意見も取り入れるべく、U-40 委員会との連携や広報委員会の拡充も検討してはどうか。

今年度中に具体案を検討し、来年度の予算に申請できるようにしたいと考えている。現在の HP のマイナーチェンジは引き続きしていく。

#### 議決結果

全会一致で承認された。

## 8. 報告事項

### 1)理事長報告

- 小野理事長より、学会規模に対して小委員会を含む委員会の数が多い事、活動実績を正確に反映した報告を行うようアナウンスがあった。

### 2)各エリア委員会報告

- 学術エリア（主・犬塚理事、副・豊野理事、櫻井理事学術委員会） 資料3 p30-42
- 学術委員会(犬塚亮委員長):PAS Meeting2026 の若手医師発表者の推薦者として林田由伽先生(大阪大学)、SCAI2025 Fellows Course 派遣者として松尾久実代先生(大阪母子医療センター)が決定した。委員会は年 3 回開催予定。
- 内科系教育委員会(関満委員長): e ラーニングコンテンツの収集と構築を目指す。従来通りの教育セ

ミナー等の企画運営も進める。

- データベース小委員会(大橋啓之委員長):年次報告集計、学術誌投稿を計画通りに進めている。
- 外科系教育委員会(櫻井一委員長):年3回の教育セミナー開催の継続、女子医大標本のデジタルアーカイブ化事業は今年度中にアプリを用いた標本閲覧が可能となることを目指す。
- 形態登録小委員会(稻井慶委員長):次回学術集会で標本記念講演の企画など行う。外科系教育委員会のデジタルアーカイブ化事業への協力を行う。
- 研究委員会(石田秀和委員長):研究課題 A・B のサポート、研究の芽、研究の種プロジェクト(新規)の推進を行う。
- 遺伝子疫学小委員会(高月晋一委員長):心臓腫瘍の全国調査や18トリソミーの先天性心疾患に対する手術介入に関する疫学調査など継続中。疫学研究倫理委員会の制約などにより活動が難しくなつており活動のあり方の検討が今後必要。
- ガイドライン委員会(鈴木博委員長):小児心不全薬物治療ガイドライン 2015 年の改訂作業中。学校 AED ガイドライン英文化が遅延しており、和文公開から時間も経過しているため、今後の方針の再検討が必要。当委員会は、循環器連合の合同ガイドライン作成への積極参画をベースとしており、そこから漏れたものを小児独自の新規ガイドラインとして検討していく方針。そのほかの学会と共同したガイドライン作成も積極的に参加していく。
- 学術集会支援委員会(早渕康信委員長):学術集会運営マニュアルの見直し、委員会企画セッションの運用上の問題の検証、e-learning コンテンツの収集など。学術集会を成立させるために可欠な活動を継続していく。
- ジョイントセッション委員会(宗内淳委員長):関連 7 学会と年間 12 セッション企画が進行中。ジョイントセッションの総数が多いという意見もあり検討予定。
- 顕彰委員会(打田俊司委員長):高尾賞、Case presentation Award、YIA、MIYATA Foundation Award、功労賞の募集と審査を継続して行う。
- 涉外エリア(主・三谷理事、副・石戸理事) 資料3p.43
- 涉外委員会(三谷義英委員長):国際涉外として AHA, AEPC, TSPC, WCPCCS2025, APPCS, KJC3 力国フォーラムとの連携活動、JSPCCS Asia-Pacific Web Conference の開催予定報告。国内涉外として JCC, JHRS, JPCPHS, 循環器連合との連携、日本肝臓病学会や JSACHD 学会とのジョイントセッションについても報告。WCPCCS2025 に関しては、坂本監事より香港チームの動向、外科系枠の 3D トレーニングワークショップを企画していることが報告された。WPCCS Young Investigator Presentation Award 募集状況は3名枠のところ 1 名応募のみであり、再告知を行う。
- 次世代エリア(主・中野理事、瀧間理事、副・落合理事、仁尾理事) 資料3p.44-48

- 次世代育成委員会(中野俊秀委員長):第 2 回ウィンタースクールの場所と日時が決定した。あけみちゃん基金からの今年度助成も決定している。施設集約化シミュレーション第 2 弾を検討中。
- 地域拠点化小委員会(瀧間淨宏委員長):2024 年度の地域グループミーティング 2 回の総括、活動まとめを作成中。今後のあり方を議論する。
- 小児心臓血管外科医生涯育成プログラム小委員会(松久弘典委員長):あけみちゃん基金からの助成で電子システムを導入し、2026 年 4 月運用開始を目標とする。プログラム参加者は 90 人近くに達し、プログラムは順調に走っている。
- 多領域専門職委員会(仁尾かおり委員長):学術集会シンポジウム等の企画運営(4 本)、学術集会企画運営に対する要望提出、Web セミナー継続と広報(3 ヶ月に 1 回、9 月 17 日で 17 回目)、オンデマンド配信継続と広報、多職種会員・学会参加者増加にむけた活動、論文投稿支援。(これまで和文誌へ 1 題掲載)、多職種評議員の積極的な推薦(現在 7 名)。多領域セッションの会場確保に関する要望や、学会参加者数が伸び悩んでいる現状と開催日程(看護師参加の学会は土日開催)についての議論があった。
- 働き方改革委員会(沼野藤人委員長): 2024 年学会セッション内容を和文誌へ総説として投稿中である。ボストン小児病院佐々木奈央先生より、前向き共同研究の提案があり、日本小児科学会会員を対象とした働き方改革に関するアンケート調査を行う予定である。今後このようなアンケートをどのように実施していくかは調整が必要。
- 専門医エリア(主・増谷理事、副・塩野理事) 資料3p.49-52
- 専門医制度・認定委員会(増谷聰委員長):機構認定が得られ、新制度での受験は 2027 年度開始予定。サブスペ領域はひとたび機構から承認されたら、更新の仕組みなどの運用は基本的に学会に任せられるとのことであり、先に小児循環器学会理事会で承認された、小児科学会の更新に沿った更新基準で進めていく予定である。内科系教育委員会主導による e-learning システム構築の連携作業を行い、小児循環器領域講習 iii の単位取得ができるようすめしていく。年次学術集会において、小児循環器領域講習 iii および、共通講習 ii(倫理・医療安全)の申請が円滑に進むよう、学術集会支援委員会と共同したい。
- 専門医試験委員会(平田陽一郎→石井卓委員長):今年度の受験予定者は 47 名と増加。試験問題プールによる効率化などを継続して検討する。
- 専門医カリキュラム委員会(麻生健太郎委員長):機構認定に向けたカリキュラム作成済み。修正や履修歴電子化を今後検討する。
- 地方会・研修集会認定委員会(増谷聰委員長):最近は新規の地方会の申請は少ない。幸い小児循環器領域講習 iii の申し込みは増加傾向になっている。
- 学会誌エリア(主・須田理事、副・武田理事) 資料3p.53-55

- 和文誌編集委員会(武田充人委員長):年4巻発刊継続。
- 英文誌編集委員会(上村秀樹委員長):投稿数増加策が懸案事項。評議員新規申請や更新の条件事項であることを再度アナウンスしていく。
- 社会制度エリア(主・落合理事、檜垣理事、副・帆足理事、石戸理事、武田理事) 資料3p.56-59
- 移植委員会(帆足孝也委員長):昨年度の方針を引き継いだ活動を行う。移植施設・補助人工心臓実施施設の間での綿密な情報共有を行う。レジストリーデータの運用・活用方法を検討。本委員会を年1回必ず開催することの必要性が議論された。
- 小児慢性・難病対策委員会(檜垣高史委員長):資料参照
- 蘇生科学教育委員会(高橋昌委員長):資料供覧
- 学校心臓検診委員会(加藤愛章委員長):これまで情報共有を目的とした学会でのセッション企画が主たる活動だった。新委員長のもと、ホームページを活用した情報発信・学校心臓検診のデジタル化推進活動など、この委員会からなすべき発信を行う。
- 移行医療委員会(城戸佐知子委員長):報告なし
- 学校と教育の連携委員会(内田敬子委員長):資料参照
- 保険診療/臨床試験エリア(主・金理事、副・藤本理事) 資料3p.60-66
- 保険診療委員会(馬場健児委員長):令和8年度診療報酬改定に向けたヒアリング準備、学術集会でのシンポジウム企画、内保連・外保連への対応を行う。
- 薬事・臨床試験委員会(藤本一途委員長):新設委員会。2021年当学会の治験推進規約改定を行い、プロプラノロール小児用タブレットや HOCM 治験薬など、複数の企業から連携依頼をすでに受けている。医療上の必要性が高い適応外使用薬剤の申請に向けての活動強化、小児科学会の薬事委員会とも連携して行う。
- 手術材料ワーキンググループ(根本慎太郎委員長):シンフォリウム PMS 登録期間延長・登録施設追加、次期医療機器の計画。
- 不整脈材料機器委員会(鈴木嗣敏委員長):小児不整脈診断治療カテーテルやデバイスのディスコン問題への対応。
- 新しいカテーテル治療のあり方ワーキンググループ(杉山央委員長):カテーテル治療医だけでなく小児循環器医、心臓血管外科医と広く意見交換することで、日本の実情にあった形でデバイス導入・手技実施につなげていくことを目標とする。カテーテル治療の新たな提言については、JCICではなく小児循環器学会ホームページに記載することが前回理事会で決議されたことが確認された。
- 経カテーテル肺動脈弁留置術管理委員会(金成海委員長):メールでの施設認定・術者認定審査、2か月に1度の定期的開催による管理運用充実を行う。

- HBD for Children 委員会(小野博委員長):資料参照
- 医療安全・倫理エリア(主・瀧間理事、副・帆足理事) 資料3p.67-70
- 医療安全委員会(帆足孝也委員長):第 63 回学術集会での医療安全講習会講師選定、委員会企画策定。そのほか医療機関等からの調査委員会への委員推薦・派遣依頼が月 1 件程度あることが報告された。
- 倫理委員会(前田潤委員長):倫理申請・修正申請の審査、第 62 回総会・学術集会の医療倫理講習会の企画、学会の倫理指針・規定の修正更新。
- 利益相反委員会(山澤弘州委員長):2024 年日本医学会 COI バージョンに合わせ、小児循環器学会 COI の更新が必要である。オンライン申告の実施推進による事務作業簡素化を行う。
- 未来予想図委員会(主・小野理事長、副・笠原理事) 資料3p.71-77
- 未来予想図委員会(小野博委員長):エリアとするか検討。学会名変更に関する議論を継続する。理事にはぜひホームページに掲載されている歴代理事長挨拶を一読いただき、本学会の理念を理解いただきたい。資料3p.72-74
- 広報委員会(松井彦郎委員長):ホームページ、ニュースレター、SNS、ニュースメールなどの活動。
- 小児循環器医療 DX 推進ワーキング(三谷義英委員長):資料供覧。学校心臓検診委員会との協働についても検討。
- U-40 委員会(鈴木彩代委員長):新設委員会。委員会活動への積極的協力依頼。

## 9. 懇談事項

- 小野理事長から、理事会開催日程について、早めに日程を決定するので、理事はなるべく予定をそれに寄せていただくようアナウンスがあった。
- 増谷理事から事務局へ、委員会の新メンバーーリングリストの送付依頼があった。
- 次回理事会:12 月 4 日

## 10. 閉会

21 時 19 分に、小野博理事長の声掛けにより閉会となった。